

西表島固有イネ科水生植物イリオモテガヤ (*Chikusichloa brachyathera* Ohwi) の生育環境

茨木 靖*

Yasushi Ibaragi: Habitat of an endemic water grass,
Chikusichloa brachyathera Ohwi, in Iriomote Island

2000年3月に沖縄県西表島を訪れた折に西表島固有のきわめて珍しい水生イネ科植物イリオモテガヤ (*Chikusichloa brachyathera* Ohwi) の生育地を訪問したのでその地の様子を紹介し、確かな産地の記録としたい。

イリオモテガヤは西表島のみ産するイネ科イネ亜科に属する水生の草本で1942年に大井次郎によって記載されたものである (Ohwi, 1942; Clayton & Renvoize, 1986). *Chikusichloa* 属は世界に3種のみが知られており、日本にはもう一種ツクシガヤ *C. aquatica* Koidz. が本州 (山形県・奈良県)、九州に分布しているが、イリオモテガヤに比べ護穎の先ののぎが長いことなどではっきりと区別される (Ohwi, 1942, 長田, 1989).

本種はツクシガヤ同様きわめてまれな植物であり、産地は西表島のごく限られた地域にのみ知られている。この種の産地としては西表島西南部の越良川でこの種を初めて採集した旨が記載されている (Ohwi, 1942).

今回、私がこの植物を見いだしたのは、西表島

東南部の仲間川の支流の一つ、西船着川の源流部であると考えられる。この支流は仲間川の北側に位置し、その河口付近に連なっている。この地域は国立公園内に位置し、周囲は亜熱帯性の樹林がよく保存されている。筆者は2000年3月に仲間川河口から浦内川へ続く縦走路を訪れたがこの折りに浦内川方面への入口を誤り、この支流の源流部へと迷い込んだ。その入り口付近は細いながらも支障なく歩ける道となっていたが、しばらく進み標高140-150m付近まで谷を下った地点で谷底に着き、ぬかるんだ泥地となってしまった (図1)。しかし、谷底が開けていたためなおも進んだところイリオモテガヤが群生しているのに遭遇した。現地は森の中ではあるが林冠が開けかなり明るく、河床まで光が達していた。河床は赤色の細かな泥で、歩くときくるぶしまで沈むほど軟弱であった。イリオモテガヤはこのような環境において直径5mほどの群落が2つ、株もとを水に浸す状態で存在していた (図2)。それぞれの株は比較的小さく丈は30-40cmほどでそれぞれ30cmほどの間隔を



図1. 谷底の様子。比較的開けており明るい。



図2. イリオモテガヤの群落の様子。

*徳島県立博物館



図3. イリオモテガヤの一株. 株は高さが30-40cmほど. 枯れた花序が残っている.

置いて生えていた(図3). イリオモテガヤの生育環境としてKoyama (1987)は, "growing on sandy or more or less rocky banks of streams with the roots in water" としているが, 上述の環境とはやや異なるようである.

この地を訪れた3月下旬は, 残念ながらイリオモテガヤの出穂・開花の時期ではなかったため, 完全な花序を認めることができなかったが, 枯れた花序が多く残っており, そのうちのいくつかに小穂が残存していたためこの種であることが確認できた(図4). この種の小穂がきわめて特徴的であることから同定はほぼ間違いがないと思われるが, 開花期においてその状況を再確認することが望ましい.

その後, 東北大学(TUS)収蔵の標本を調査したところ, ただ1点, 西表島東南部大富~第一山小屋間で採られたもののみが収蔵されていた.

筆者がイリオモテガヤを観察した地点より下流の状況は, それ以上前進することができなかったため明らかではないが, 上記のように付近で採られた標本もあり, 仲間川水系を含めた西表島東南部にイリオモテガヤが分布していることは確実に, この付近には本種が比較的普通に存在している可能性もあるものと思われる.

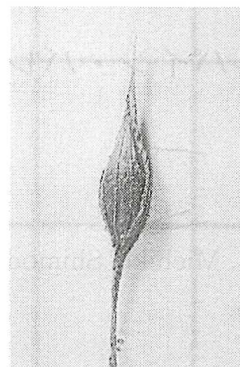


図4. イリオモテガヤの小穂. バックの1目盛りは3mm.

以上のように仲間川の支流の一つにおいてのイリオモテガヤの生育環境を記述したが, 上で述べたようにこの地は森林の中のごく狭い河床に限られ, 今後樹木が生育し林冠が閉じればイリオモテガヤの生育が阻害されるおそれもあり, 現地においての追跡的な調査の必要性が感じられる.

本稿をまとめるに際し有益なご助言をいただいた九州大学大学院理学研究科生物科学専攻の小林史郎氏, 貴重な標本の閲覧を許された東北大学標本館(TUS)の諸氏に記して感謝の意を表したい.

観察標本

琉球国西表島大富山地カラ第一山小屋 (about central area from hill of Ohtomi, Is. Iriomote, Prov. Ryukyu), Miyoshi Furuse no. 3498, 25 Jun. 1973 (TUS): very rare plant, endemic plant, by sandy place & stream margin in thick forest.

引用文献

- Clayton, W.D. and S.A. Renvoize. 1986. Genera graminum, Grasses of the World: 73. Her Majesty's Stationery Office, London.
- Koyama, T., 1987. Grasses of Japan and Its Neighboring Regions, An Identification Manual: 27, 497. Kodansha, Tokyo.
- Ohwi, J., 1942. Symbolae ad floram Asiae Orientalis 18. Acta Phytotax. Geobot. 11: 255.
- 長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜. pp.84-85. 平凡社, 東京